

●シリーズ●わが町の文化財へ53

世羅町重要文化財 木造延命地藏菩薩半跏趺坐像

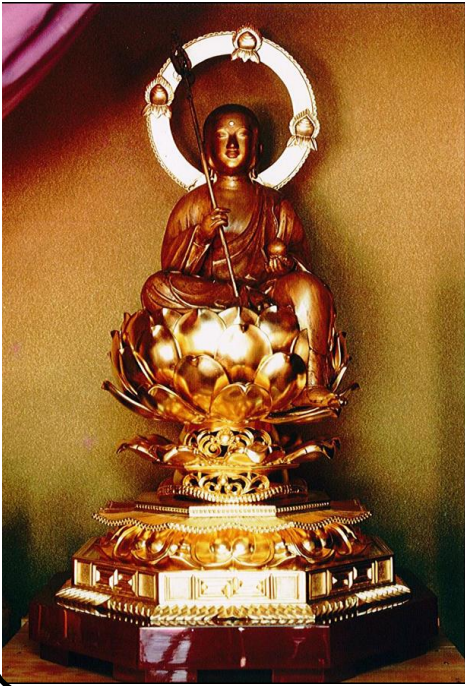
昭和59年5月15日指定

本像は安楽坊の寺歴を物語る貴重な地藏菩薩で、中世庄園大田庄時代に地頭方（橘氏・三善氏）の寺院として護持されていた頃の仏像であると推定されています。

尾道市西国寺にのこる古文書『西国寺不断修行勸進并上銭帳』（文明3年・一四七一）には、「今高野山衆」として、福智院と並んで安楽坊が記載されており、その他に「下津屋山衆」の記載もあり、このことから、15世紀頃には、安楽坊が下津屋山の中心寺院として活躍していたことが分かります。

寺は江戸時代に山津波によって押し流され、現在地に再建されましたが、さらに昭和37年（一九六二）山津波にあり、仏像の一部が損傷しました。近年専門の仏師によって補修され、町内では珍しい木造の延命地藏です。作風から鎌倉時代の作と推定され、木造彫眼、像高58.5cm。台座は後世の改変がなされています。

なお、本像は秘仏であり24年に一度開帳法要が行われています。



●シリーズ●わが町の文化財へ54

世羅町指定重要文化財 光源坊本堂

平成9年5月22日指定

寺伝によると御塔山光源坊は、かつては三次市吉舎町檜村にあつたといわれています。当初は

真言宗の寺として、長門国萩の城主

おがさわらじゅうざえもんみなものむねかた

小笠原重左衛門源宗賢の二男

むねたか

宗尊が僧となり「林語」と名乗って

光源坊に住んだとされています。

天文4年（一五三五）、浄土真宗に

転じ、本山より本尊及び寺号「真教寺」

を賜りましたが、明治5年、寺号を

真言宗時代の「光源坊」に改名し現在

に至っています。

現在の本堂は、宝暦12（一七六二）

ほうろうん

年10世峰雲の代に再建されたもので、

屋根の葺き替えはあつたものの、ほと

がらん

んど当時の様相を残す伽藍です。木造、

さんかわらぶき

いりもやづくり

棧瓦葺、入母屋造、七間、三方廻

えん

縁、向拝2間半。柱は総檜丸柱。

